

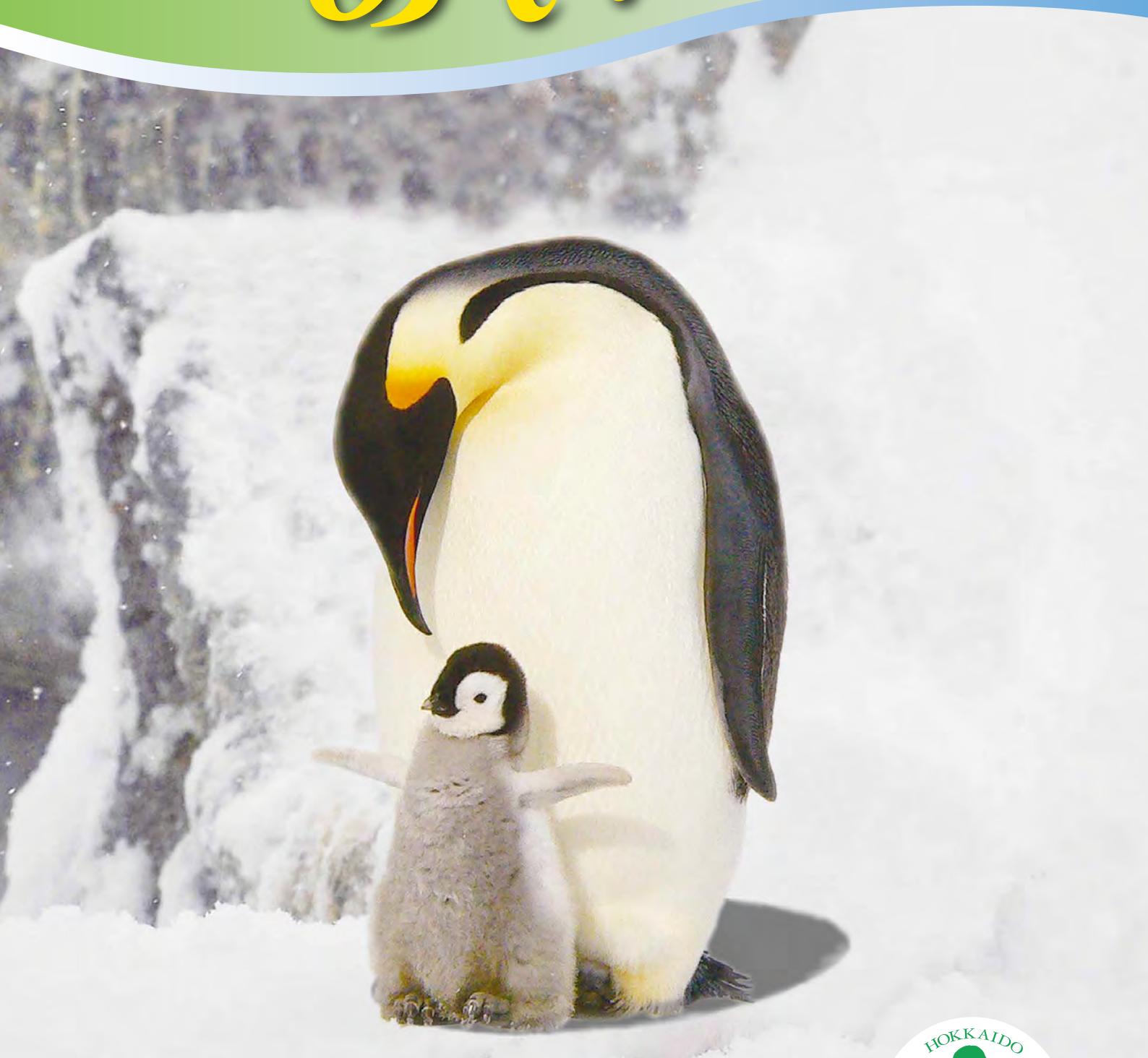
Nursing あい

北海道看護協会十勝支部ニュース

発行者 (社)北海道看護協会十勝支部
編集責任者 光 恵子

No.105

2021年3月発行



北海道看護協会十勝支部会員数

(2021年3月31日現在)

保健師 91名

看護師 1,695名

会員総数

助産師 73名

准看護師 192名

2,051名



北海道看護協会 シンボルマーク

第37回十勝支部看護研究学会

日時／2021年2月13日(土) 時間／12:30～14:10
場所／帯広厚生病院 Kosei Hall



今年度の看護研究学会は、新型コロナウイルス対策として第Ⅰ群から第Ⅲ群まで各座長の下、オンラインでの研究発表となりました。

第37回 看護研究学会に参加して

第Ⅰ群

座長 及川 敏江



帯広保健所 健康推進課 主査



J A 北海道厚生連 帯広厚生病院
精神科病棟 看護師 高橋 美姫

Ⅲ度熱中症により緊急入院した統合失調症患者の思い

この度、十勝支部看護研究学会において発表の機会を頂きました。日々、身体合併症治療を必要とする精神疾患患者に向き合う中で、患者の思いに焦点を当て必要な看護について深めたいと考え、本研究を計画しました。私自身、はじめてのインタビュー研究ということもあり苦労しましたが、アドバイザーや上司の支えにより最後までまとめることができ、良い経験となりました。

Ⅲ度熱中症を発症した統合失調症患者へのインタビューでは、身体合併症を受けとめる過程での葛藤、治療に対する戸惑い、後遺症への不安、精神疾患に対する社会的偏見の辛さなど、ありのままの思いを知ることができ

A病棟における災害対策に向けた災害前対策を考える

この度、新型コロナウイルスの影響によりオンラインの開催ではありました、多くの看護研究発表を拝聴することができました。

今回、当院からは災害対策についての看護研究を発表させていただきました。非日常である災害に遭遇した際に患者様やスタッフの安全を守るために、日ごろより災害に対する知識や心構えが必要であると改めて実感しました。今回の看護研究発表を通して十勝の各々の病院、各々の部署で改めて災害時の準備や災害時にとるべき行動を見つめ直す機会になれば幸いです。

また、病棟勤務の為、普段関わることが少ない救急や

意思決定を支える看護

～ALS在宅独居療養者の生きがいに寄り添って～

担当していた利用者様の意思決定支援で、この方向性で良いのかと悩み葛藤しましたが、抄録作成するにあたりこれで良かったのではないかという自分への振り返りとなりました。

私たち看護師は、予測されることに対して常に前もって準備することを考える傾向にありますが、実際の利用者様はそこまで望んでいない事が多く、どのように伝えれば良いのか悩みました。看護師の不安の解消のための支援ではなく、誰のための支援なのか立ちどまり考える

集中治療室における面会制限に対する家族の思い ～家族へのインターでみえたこと～

今回看護研究学会に参加し、集中治療室における面会制限に対する家族の思いについて研究した成果を発表さ

北海道社会事業協会 帯広病院

4 A病棟 看護師 三浦 夏乃



訪問看護など多方面の看護について触れることができ、広い視野で看護を見つめ直す機会となりました。改めて退院後にも続く患者様の「生活」や、どのように過ごしたいか、何を大切にされているか、ということを意識して入院中から患者様を含めた多職種とカンファレンスを重ね、サポート体制を整えていく大切さを実感しました。

最後に、新型コロナウイルスにより面会制限や出産の立ち合い制限などが厳しくなっている現状があります。患者様にとっては不安な入院生活を過ごしていることを念頭に置き、患者様に寄り添って少しでも安心できる看護を心がけたいと思います。

訪問看護ステーション向日葵

看護師 北守 真美



事で、次の支援が見えてきました。

ALSで徐々に進行している自分の体と向き合って、常に生きることに前向きな姿勢に、関わるケアチームに皆が力を頂いています。

今後も意思決定支援を大切に、多職種で連携し在宅医療の発展の為に尽力していきたいと思っています。

コロナ禍でWEBでの開催でしたが、看護協会十勝支部の方々のご協力で無事に終了することが出来ました。ありがとうございました。

J A 北海道厚生連 帯広厚生病院

HCU・救急 看護師 菊地 祐希



せていただきました。研究期間中はコロナウイルスの発生前であり、平時のICUでの面会制限についての家族の

思いが明らかにできた為、今後の面会制限について検討していこうとしていた所でした。しかしコロナウイルスの流行によりICUでも今まで以上に厳しい面会制限を敷かざるを得ない状況となってしまいました。患者家族へ配慮したい思いと感染対策を徹底しなければならない思いで葛藤することも多く、どのように対応することが最善なのか、その都度スタッフや上司と話し合い今でも検討を重ねています。当院でもオンライン面会ができるようになっており、新しい面会方法を上手に活用していく

第Ⅱ群

身体拘束を受けている患者についての家族の思い

私は、意識障害のため身体拘束を受けている患者の家族から、身体拘束についての質問や要求等の思いから、家族を看護の対象として捉え直し、質の高い看護に担う示唆を得ることができました。

録音した家族の思いを、何度も何度も繰り返し聞き、カテゴリー化から、Finkの危機モデルの概念に例え、衝撃・防御的退行・適応の各時期の、看護師の役割を深めることができ、とても理にかなった看護研究となりました。

手術看護における患者の安全を守るために取り組み ～手術安全チェックリストの定着を目指して～

今回の研究では、手術看護を安全に行うために必要なものとして、手術安全チェックリストの導入についての研究発表をさせて頂きました。開始当初は、どのように研究を進めていけば良いのか悩みました。しかし手術安全チェックリスト使用の定着を目指し活動を行っていくにつれて、スタッフ間でのコミュニケーションも増え、日々自分たちが行っていることは、安全に手術を行うことに繋がっていたと実感することができました。研究終了後も、より良い看護が行えるよう、チェックリストの継続や修正に取り組んでいます。

ウォーキングカンファレンスの手術書を活用した取り組み

看護研究学会に参加させて頂き、十勝管内の他病院の発表を聞き①どの研究も自分たちが関わっている患者様とそのご家族により良い看護を提供し満足していただく為にはどのような事が必要か②自分たちが働く環境を整えていくためにもっと良い方法があるのではないかなど、どのテーマも深く掘り下げられた研究で、多くのことを学ばせていただき大変充実した学会でした。

まさに看護研究は日常の看護業務の中の疑問から芽生え、結果は日常の看護ケアに生かされているのだと感じました。

第Ⅲ群

たらと思っています。

今回はオンライン上での発表で初めての体験でしたが、会場にいる人数が少なかった為かそれほど緊張せず落ち着いて発表ができました。質問も後日改めて回答する方式でありゆっくり考える時間があつて良かったです。人前での発表が苦手な私でも、このような方法であればまた研究発表してみてもいいかなと思うくらいなので、皆さんもどんどん研究発表してみてはいかがでしょうか。

座長 橋口 いずみ

訪問看護ステーション ほっとらいん所長



J A 北海道厚生連 帯広厚生病院
HCU・救急 看護師 小椋 太介



多くの施設と繋がっているWEBによる発表を初めて経験しました。直前まで全く不透明な発表形式でしたが、実際の会場を把握すると、三密の回避と、ソーシャルディスタンスの十分な確保ができていたと思います。

今回、患者の家族の思いをアクセスメントに取り入れることが重要であると再認識できました。今後も、患者と同様、家族の訴えも良く傾聴しケアに繋げ、看護の質を高めていきたいと思います。

公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院
手術室 看護師 中村 幸恵



手術室ではあまり患者様と関わる機会が多くはありませんが、病棟などで勤務されている方の発表を聞かせて頂き、私達は短い関わりの中でも丁寧に患者様と関わり、一人一人の思いを大切にしたいと感じました。術中のみではなく、術前・術後の継続看護を行えるよう心掛けたいです。手術看護に関する発表も聞くことができ、当手術室でも参考にさせて頂こうと思っています。

今回はこのような機会を頂きありがとうございました。

社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター
西3階病棟 准看護師 松下 亨代



日々の看護実践の積み重ねこそが質の高いサービスの提供につながり、看護は更に発展していくのだということを改めて学んだことで、今後も仲間と共に日々努力と創意工夫を続けていきたいと思います。

会場では、例年とは異なるリモート発表の準備や感染対策が万全に整えられており、安全に安心して発表することができました。

学会開催にご尽力いただいた関係役員の方々に深く感謝いたします。貴重な学びの場をありがとうございました。

座長 外山 美紀

J A 北海道厚生連帯広厚生病院 看護科長



ICU看護師の職務継続の検証 ～働きやすい職場環境とは～

今回の研究では「ICU看護師の職務継続の検証」と題し、当院ICU実務経験3年以上の看護師4名へインタビューを行い、結果から職務満足の要因と課題となる要因が明らかになりました。本研究は対象看護師が4名と少人数であり、結果から職場環境を整える示唆を得るというまでには至りませんでした。しかし、インタビューから看護師4名それぞれの、看護への熱意や後輩の指導に対する考え方等、普段は聞けない貴重な思いを聞くこと

独立行政法人 国立病院機構 帯広病院
ICU 看護師 本村 あづさ



ができました。

当院ICUばかりではないと思いますが、看護師定着は大きな課題です。研究の結果から当院ICUの労働環境や特徴から職務継続の理由も沢山挙がりました。今回の研究結果を踏まえて、当院ICUの魅力を後輩たちに伝えていけるよう努力していきたいと思いました。

今回の看護研究学会開催にあたり、運営の方々へこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

手術を受ける患者のアレルギー対策 ～統一したケアを目指した取り組み～

北海道看護協会十勝支部 看護研究学会に参加させていただきました。
コロナの影響もあり、WEB上での発表という形式に若干の戸惑いを抱えたままの発表とはなりましたが、舞台上での発表とは違う緊張感は感じつつも大変良い経験をさせて頂きました。他施設での研究テーマの中には、興味深いものあり、とても参考になりました。

今回、「手術を受ける患者のアレルギー対策」をテーマに看護研究に取り組みました。年々増加傾向にあるアレルギー患者への対応は本研究後も課題の多いテーマで

社会医療法人社団 開西病院
看護介護部 手術室 看護師 武山 恒子



あり、手術室に関わらず関心のあるテーマかと思います。本研究を通して手術室以外の各病院スタッフとも意識共有を図れたことは、とても意義があったと感じています。他部署への勉強会実施やアンケート協力など、自部署以外のスタッフの協力も本研究では大きく、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。研究結果には課題もあり、今後も対応が必要なテーマではありますが、今回の研究がきっかけとなり、チーム医療の連携や統一した看護の提供に繋がっていけるよう、取り組んで参ります。ありがとうございました。

救急領域における倫理的看護実践 ～手突然の発症により救急搬送された患者へのインタビューを通して～

今回は「救急領域における倫理的看護実践」というテーマで看護研究をさせて頂きました。救急場面には、突然の発病や外傷などで身体的・精神的危機状態にある患者が多く、救命処置や検査を優先し、患者へ倫理的配慮が十分にできていない現状があると感じていました。また、患者の心理的動揺や不安は強く、理解できていないことも少なくないのではないかと感じていました。研究を通して、緊急的な処置や検査が必要な状況における患者心理の把握と救急看護に求められる倫理的な看護実践について考えることができ、日ごろ抱いていた疑問を明らか

J A 北海道厚生連 帯広厚生病院
HCU・救急 看護師 藤井 絵美



にすることができました。

現在は、3次救急患者の受け入れに加えて、新型コロナウイルス感染症の対応にも追われ、忙しい日々ですが、今後も倫理的感受性を大切にして看護を展開していくと思いました。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、講習や学会の予定が中止になることが多い中、感染予防対策をしながら、WEBで看護研究学会を開催していただけたため、他院の看護研究にも触れることができ、多くの学びを得られたと思います。

看護師における腹腔ドレーンの排液表現標準化を目指して ～ドレーン排液スケールを活用した取り組み～

この度、帯広厚生病院で開催された第37回看護研究学会に参加させて頂きました。昨今流行しているコロナウイルス感染症対策のため、例年とは異なり会場には発表者のみで傍聴者はリモートでの参加といった形で行われました。病棟だけではなく、手術室やICU、訪問看護など様々な部門からの研究報告があり、今後の看護実践に活かしたいと感じるものが多く、大変興味深く拝聴させて頂きました。その中でも抑制や面会制限における家族の思いについては特に印象に残りました。コロナ禍で入院中の家族に会えないからこそ不安や心配が増強することに繋がってしまう可能性があり、患者様だけではなく

公益財団法人 北海道医療団 帯広第一病院
3A病棟 准看護師 松木 なぎさ



くその家族への関わりに対しても今まで以上に精神的なサポート・ケアが必要になるのだと感じさせられました。その場での質疑応答が行えなかったのは残念でしたが、学会終了後に私達の研究に関心を持ち、声をかけて下さる方がおり、情報交換ができたことは大変嬉しく思いました。

今回の学会参加を通して、日々看護を行っていく中でふと疑問を抱いたことを研究し、深く追求していくことによって更に質の高い看護を提供できるのだと再認識することができました。研究に取り組む日々は大変でしたが、有意義な経験となりました。